

令和6年9月6日



大型クラゲ情報(令和6年度第8号)

概要

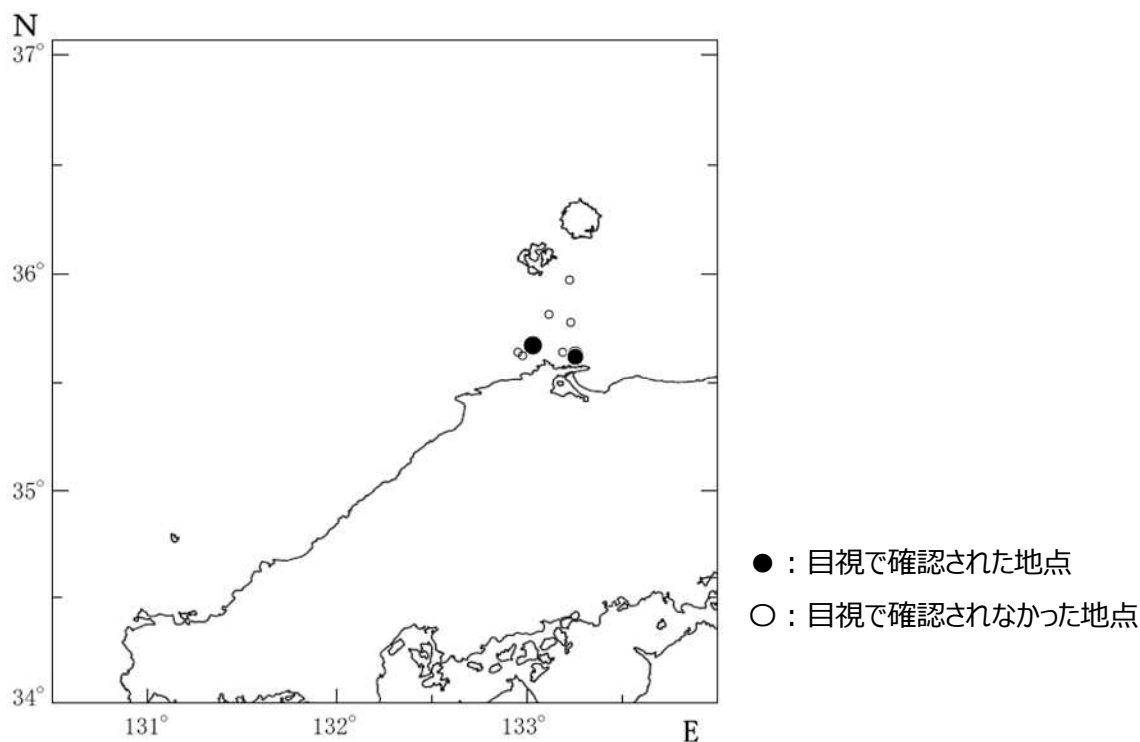
- 小型底びき網では東部～西部の広い範囲で大型クラゲの入網があり、各種漁業被害が生じています。また、沖合底びき網でも大量の入網が続いています。
- まき網や県東部・西部の定置網では、やや入網が落ち着いています。
- 長崎県の定置網の状況から、クラゲの日本海への流入が減少してきたと考えられます。しかし日本海沖合にはまだ大量に滞留している可能性が高いため、引き続き警戒が必要です。

本県の出現状況(9月5日現在)

- 9月に入り小型底びき網の操業が始まりましたが、松江市沖から益田市沖まで、広い範囲でクラゲの分布が確認されています。県西部では1網毎に10～30個体程度、東部でも数量は不明ですが入網が続いており、漁獲物の白色化や鮮度低下、漁獲量減、操業遅延等の被害があります。また、西部の経営体からは、クラゲの分布は灘側で少なく沖側で多いという報告もされています。
- 沖合底びき網では、県西部で1網毎に数10～数100個体の入網と、漁獲物の品質低下や漁獲量減、操業遅延などの被害が続いています。また今回、隠岐や県東部の経営体からも入網と被害(網の破損や漁獲量減)の報告がありました。隠岐からの報告によると、隠岐南方の海域にクラゲが多く分布するポイントがあり、1網毎に100個体程度の入網があったとのことでした。
- 県東部・西部の定置網は9月に入ってからの入網数が5～50個体程度となり、8月後半と比べるとやや落ち着いています。一方、隠岐地区は場所によって100～200個体程度の入網が続いています。
- まき網も全県で入網が続いていますが、量は1日1経営体あたり300kg～1トン程度で、10トン程度の入網があった8月後半と比べると減少しています。

巡視船「せいふう」による大型クラゲ目視調査結果(8月28日～9月5日実施)

- 巡視船せいふうにより、取り締まり業務に併せて大型クラゲの目視調査を実施しています。今回は、8月28日～9月5日に調査が実施されました。
- 次ページの図に示した9地点中3地点において、各2個体が確認されました。100cm以上の傘径の個体も確認されています。



漁業情報サービスセンター（JAFIC）からの情報提供（9月5日現在）

- 長崎県の定置網の入網は減少傾向が見られます。後続群が少ないと考えられます。
- 一方、対馬から山陰で操業の底曳で散発的にまとまった入網があることから、日本海沖合には依然まとまった群が分布している可能性があります。海況や気象の影響で沿岸で急増する可能性があるので警戒してください。

※詳細は漁業情報サービスセンターHP (<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>) を参照

大型クラゲのための漁具改良マニュアルについて

- 水産研究・教育機構が、大型クラゲ対策のための底びき網や定置網の漁具改良、海洋駆除の方法についてまとめたマニュアルを公開しています。下記の場所にありますので、ご参考ください。

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/files/kurage4.pdf

【発信者】

島根県水産技術センター
 海洋資源科 担当：石原
 TEL: 0855-23-4806
 FAX: 0855-23-2079
 Email: suigi@pref.shimane.lg.jp